

リハビリテーション医療対象患者の治療効果・有害事象に関する後ろ向き研究 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間： 2020年 9月 18日 ～ 2025年 3月 31日

〔研究課題〕

リハビリテーション医療対象患者の治療効果・有害事象に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕

本研究は、これまでに帝京大学医学部リハビリテーション科(現リハビリテーション医学講座)および医学部附属病院リハビリテーション部に蓄積されたカルテのデータを調査・解析することで、過去そして現在の症例で治療効果・有害事象を明らかにします。

〔研究意義〕

リハビリテーション科には、多岐にわたる疾患による障害に対応し、障害の残存により長期間の診療が必要となる患者が多く、また頻度が比較的まれな疾患に対応することも少なくありません。これらに対しては、診療録に記載された過去のデータをふりかえる研究(後ろ向き観察研究)が非常に有用な手法として盛んに行われています。本研究の解析で得られた知見を学会・論文を通じて医療レベル全体の向上を図るとともに、今後診療をうけていただく症例に良質な医療を提供するための資料として活用することで更なる治療成績の向上やより安全なリハビリテーション医療の提供を目指します。

〔対象・研究方法〕 帝京大学医学部リハビリテーション科(現リハビリテーション医学講座)および医学部附属病院リハビリテーション部で1977年4月から2019年3月末まで診療をおこなった症例のうち、患者様本人から拒否があった場合および研究責任者が対象者として不適当と判断した場合を除いた症例を対象に、診療の際に得られたカルテ情報(年齢、性別、症状、病名、病歴、障害名、診察所見、処方、処置、リハビリテーション記録など)や画像所見(レントゲン、CT、MRI、核医学検査)、生理機能検査所見(心電図、血圧脈波検査、脳波筋電図、呼吸機能検査、重心動揺検査、超音波検査)、血液・尿の既知のデータを用いて、リハビリテーション治療による患者および障害の変化を収集します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部リハビリテーション医学講座

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報の保護に留意し、匿名化・保管・破棄の方法に配慮します。患者情報は研究終了後、帝京大学臨床研究センターで10年間保管後に破棄します。

〔その他〕

研究参加による経済的な利益は発生しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 緒方直史 主任教授
研究分担者代表: 本田祐士 助教
所属: 帝京大学医学部リハビリテーション医学講座
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 33714]